

遺愛幼稚園 創立のころ

満 玉 児

遺愛幼稚園は大正二年創立となつておりますが、実は明治二十八年九月、十人の幼児（内五名は米国宣教師の子供等）を以つて当時の遺愛女学校附属小学校の建物の階下に同じく附属幼稚園として始められたもので御座居ます。（其後当市にもう一つ他に幼稚園のようなもの（英人？）があつたと聞いて居ります。）

最初は東京の女子学院出身の方が一時先生でしたが、翌年の新学期には神戸の頌栄伝習所を出た先生（遺愛女学校を出て特に此の幼稚園のために勉強された荻田ふみ氏）が後を引受けられて其時から母の会がございました。私が小さい時母につれられていつたことが、今だに記憶に残つております）段々町の人にも認められるようになり、十年位後には、園児が多くて午前と午後に分けて保育するほどであったそうです。御承知のように明治四十年の函館大火に逢い不幸にも其時建

物は勿論のこと、書類全部失つて了いましたため、大正二年に只今の園舎が新築、開園されました。其時を創立と定めたものでございます。（此の時神戸頌栄伝習所の教師をしておられた前の荻田ふみ先生がわざわざ来函されて発園のため御尽力されたそうです）此頃は幼稚園も一般社会に要望されるようになつておりましたので六十四人の新入児を得て始められました。そして翌年には九十人になり、頌栄出身の二人の先生と女学校出の五人の助手で只今から思いますと羨しい時代でした。保育はフレールベル式で午前中丈で毎日必ず礼拝、集会、恩物、手技、遊戯とプログラムに従つて順序正しく行われたものでした。午後は五人の助手等の養成に当てられました。園児等は市内でも名の知られた中流以上の家庭の子供等許りであつたようです。園長は米国人で、幼稚園と家庭との連絡、母親教育等を重んじて特に母の会を盛にするため努力されました。

其後二年位後には市内に小さい公園（清花園）只今の第二遺愛幼稚園）が出来ましたのも母の会の協力による所が多かつたのです。

其の後、時代が変わって私がさせて頂くことになりましたが地盤が出来ておりましたので特別な困難もなくさせて頂いておりますことを感謝しております。（函館・遺愛幼稚園）